

「蕁麻疹」って何？

みなさんは「じんましん」という病名、聞いたことがあると思います。具体的な症状として、突発的に痒みを伴う膨疹(蚊に刺された時のような赤く盛り上がった皮膚)が出現し、たいていの場合は数時間〜1日で痕を残さず消えてしまいます(もしも同じ場所に1週間も湿疹が出ていたら、他の病気を考えます)。症状がひどい時には一つ一つの膨疹が合体して、まるで地図のように赤く盛り上がることもあります。

Q 皮膚の中で何が起きてるの？

皮膚の比較的深い場所に「マ

スト細胞」という細胞が存在します。この肥満細胞が何らかの原因(食べ物・薬)で刺激されると、「ヒスタミン」という物質を放出します。するとかゆみを引き起こすとともに、近くを通る血管から水分を引き寄せ、その引き寄せられた水の分だけ皮膚が膨らむため、外から見ると蚊に刺されたような赤く盛り上がった皮膚に見えるのです。これが蕁麻疹のメカニズムです。

ちなみに、サハなどの青魚を常温で放置するとこのヒスタミンという物質が産生されます。賞味期限のあやしい魚を食べると蕁麻疹が出るのは、このヒスタミンのせいなんです。私も医学生時代、うっかり賞味期限

スタミンは熱では分解されにくいと知ったのはその後の話です。

Q 蕁麻疹の原因は？

蕁麻疹の原因は多岐にわたります。特定の薬や食べ物で蕁麻疹が出る人(アレルギー性蕁麻疹)、冷たいものや風に触れると出る人(寒冷蕁麻疹)、ひっかくような物理的な刺激で出る人(機械性蕁麻疹)など。原因を探索するためにおすすめなのが「じんましん日記」をつけることです。蕁麻疹がいつごろ出たのか、出る前に何をしたらか、何を食べたかを記録しておきます。特にアレルギー性蕁麻疹の場合はこの記録の中から関連したものをピックアップして、その関連性を検査で調べることが出来るかもしれません(パッチテストやプリックテスト、少量内服テストなど)。

しかしながら、繰り返し症状が現れる蕁麻疹で1カ月以上症状が続く、「慢性蕁麻疹」では原

因が特定できないことが多いのが現状です。蕁麻疹の原因で一番多いのは「原因不明」なんです。

Q 蕁麻疹の治療は？

まず、原因がわかっている場合は原因を取り除くことです。特定の食品が原因ならその食品は避ける、薬が原因なら内服を中止する、または他の薬に変更する、など。ただし病院から出ている薬は、勝手に止めずに主治医の先生と相談してくださいね。

原因がわからない、もしくは避けられない場合は、抗ヒスタミン薬という飲み薬が第一選択です(薬局で花粉症の薬としても売られています)。塗り薬はほとんど効果がありません。それ以外に免疫を調整する薬や漢方が治療薬としてあります。それでも治らない場合は「オマリズマブ」という注射が2017年から登場しました。治療で治

を忘れていたブリの刺身を「火を通せば大丈夫だろう」と照り焼きにして食べたところ、丸一日かゆみに悩まされました。ヒ



療抵抗性の蕁麻疹患者さんには有効性が確認されており、あたらしい蕁麻疹治療の選択肢として期待されています。

今月の先生



岐阜市民病院 皮膚科
後藤祐介 先生

- 専門分野
皮膚科疾患全般
- 卒業年、主な職歴
平成27年卒
岐阜大学大学院医学系研究科皮膚病態学・医員
大垣市民病院皮膚科